トイレの変遷～「不浄の場」から「憩いの場」へ～

研究開発部
宮木 由貴子

トイレは万人が使用する、人間にはなくてはならないものである。汚いからと家屋から離れた場所に設置され、不浄の場としてかわや神が祭られたこともあるトイレは、今、たかが用足しの場所と侮れないほど、きれいで快適になっている。

【家のトイレ】

いわゆる「和式」とされた日本のトイレは、1970年代から急速に洋式化されてきた（図表1）。洋式便器には、用足しの体勢が楽、便器の底に水たまりがあるので臭いの発散が少ない、乾燥面が小さいので汚物が付着しにくいといった利点がある。今日の新築住宅はほぼすべてが洋式便器で、和式は主に公共トイレで採用されている。

さらに今日、洋式便器から温水シャワーのついた便器の普及が進んでいる（図表2）。西欧では、トイレの横に設置された「ビデ」と呼ばれる洗浄用容器が一般的だったが、ビデの文化のない日本人にとっては衝撃の一品だった。しかし、温水洗浄便座も慣れれば快適とあり、近年の低価格化や脱臭効果などの付加価値も評価され、急速に普及が進んでいる。

こうして、ゆっくり座ってくつろげる場所となった家のトイレは、本や新聞を読んだり瞑想にふけったりするのにうってつけの空間となり、一家にひとつからふたつ、みっつと増えているようだ。

【公共トイレ】

一方で、公共トイレはどのような状況にあるのだろうか。わが国初の公共トイレは、明治5年、道路上での放尿を取り締まる「放尿取締の布告」を契機にできたものだという。「公共トイレ＝公衆便所」は従前大変汚いイメージがあったが、最近ではかなりきれいなものが増えてきた。家庭のトイレ環境の向上に伴って、公共トイレもきれいで使いやすくしないと、潔癖症の現代人には使えないのだ。

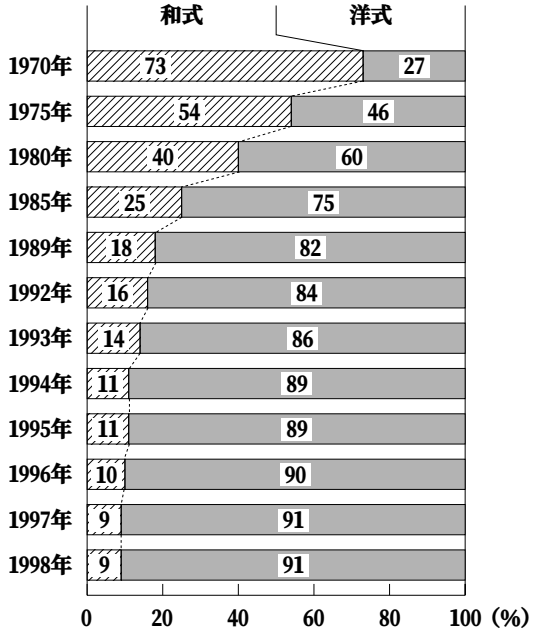
公共トイレのもう1つの悩みは順番待ちの行列だ。トイレが混雑している公共施設としては、「テーマパーク」「交通施設」「劇場・映画館・スポーツ施設」などが上位にあげられている（図表3）。公共トイレでの行列時間をみると、男性では「1～5分」とした人が47.5%、「5～10分」とした人が39.5%であるのに対して、女性では「1～5分」が14.4%と少なく、「5～10分」が42.8%、「10～20分」が33.6%となっている（図表4）。男性より、トイレに行く頻度が高く、所要時間も長い女性で、外出先でのトイレ利用は悩みの種なのだ。

【いまどきのトイレ観】

昨今では、自分の通う学校やオフィスを選ぶ際にトイレがきれいか、旅館やホテルを選ぶ際に温水シャワーの便座がついているか、新居や結婚式場などのイベント会場についてトイレが洋式かといったことを選択条件の1つにするという人も少なくない。最近のショッピングモールなどでは、メインターゲットの女性顧客を意識し、「絶対並ばない女性トイレ」を宣伝文句に掲げているところもある。また、子連れで外出しやすいように、街のトイレではおむつ替えベッドや、親が用を足している間に子どもを座らせておくイスなどの設置も進んでいる。バリアフリートイレも目立つようになってきた。

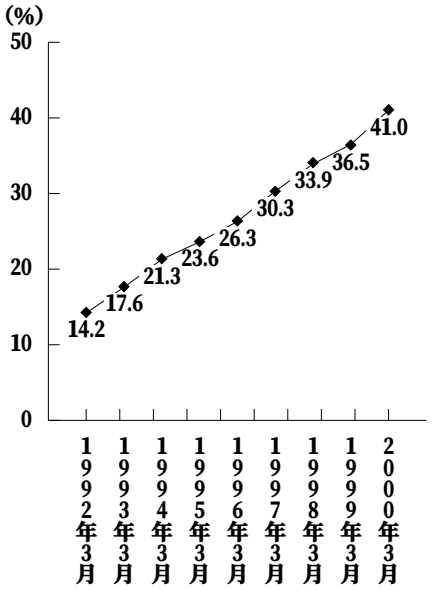
「トイレを見ればその家がわかる」ということだろうか。

図表1　和式・洋式便器の出荷推移



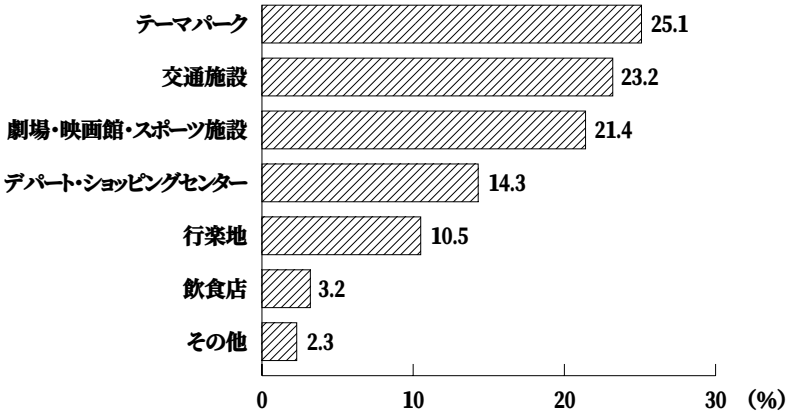
資料:TOTO社協力データ(1998年)

図表2　温水洗浄便座の普及状況



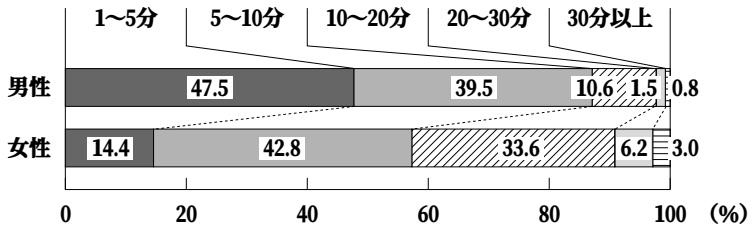
資料:経済企画庁「消費動向調査」(2000年)

図表3　トイレが混雑している公共施設



資料:TOTO「公共トイレ混雑に関する調査」(2000年10月)
インターネットコミュニティを利用したウェブ形式のアンケート(n=3465)

図表4　公共トイレでの行列時間



資料:図表3に同じ